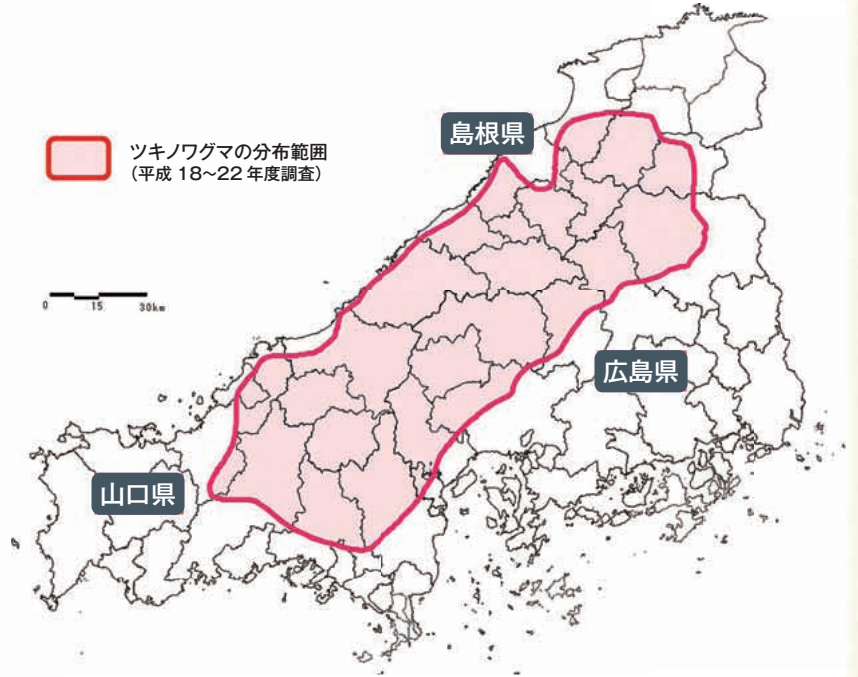


ツキノワグマによる被害の防止のために

1 ツキノワグマの生息状況

広島県に生息しているツキノワグマは、島根、山口にまたがる地域に生息している「西中国地域個体群」に属しています。近年、分布域が拡大傾向にあります。

ツキノワグマの分布範囲
(平成 18~22 年度調査)



2 ツキノワグマによる被害

ツキノワグマは、本来臆病な動物であり、通常は人間を避けて行動していますが、食べ物を求めて集落に入り、庭の柿や栗などのほか、農作物(果樹など)、畜産飼料、養魚場などに被害を出すことがあります。

【被害の例】



枝が折られた柿の木



枝が折られた栗の木



倉庫から米糠を引きずった跡



クマハギ



クマに食べられた稲



稲が食べられた跡

【ツキノワグマの痕跡の例】



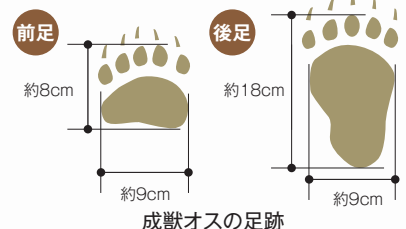
クマのフン



クマのフン(柿を食べた糞)



木に残されたクマの爪痕



3 ツキノワグマの四季



春	冬眠から目覚めて体力回復。子グマは1歳半頃になるまで、母グマと一緒に行動します。	秋	冬眠に備えて栄養蓄積のため活発に活動します。木の実などの多くの食べ物がが必要です。
夏	繁殖期。行動が活発になります。	冬	冬眠中は何も食べません。妊娠したメスは冬眠中に1~2頭の子供を産みます。

4 農作物被害対策・人里に近づけないために



ツキノワグマを集落に出没させない対策としては、ツキノワグマを誘引するものを徹底的に除去することが基本となります。

● 住居

■ 庭に柿などの果樹を植えている場合

● 柿などの果実の早期収穫

ツキノワグマの出没がなくてもできるだけ早く果実を収穫しましょう。

● 利用しない果樹の伐採

可能であれば、利用されていない果樹は伐採しましょう。それにより、集落内を野生動物にとって魅力のない環境にします。

● トタン巻きなどによる対策

果実の早期収穫や果樹の伐採ができない場合は、果樹にトタン巻きなどを行い、ツキノワグマが利用できないようにします。



柿もぎの様子



トタン巻きの例

■ 蜂の巣の除去

住居の周辺や軒下などにできた蜂の巣を狙ってツキノワグマが出没する場合があります。ツキノワグマの出没が予想される地域では、専門業者に依頼するなどして蜂の巣を除去しましょう。

■ 食料品・ペットフードの管理にも注意を

ツキノワグマが集落内に出没を繰り返すようになると、食べ物を求めて行動が大胆になり、思いがけないものが誘引物となって危険な状態が生まれます。

倉庫においた農作物、玄関先や犬小屋の前に置いたペットフード、勝手口においた漬物樽などを食害された例などもあります。

食物は屋内に入れ、野外に放置しない工夫をしましょう。また、ペットへの餌やりの際は食べ残しがないように注意しましょう。

■ コンポスト・ゴミ箱の管理

生ゴミを堆肥に変えるコンポストは環境に配慮された生ゴミの処理器ですが、ツキノワグマの出没地ではツキノワグマを誘引する可能性が高いため、電気柵で対策を行うか、使用しないことをお勧めします。

また生ゴミなどのゴミ出しは地域のルールに従って行き、できるだけゴミの収集の直前に行うようにしましょう。



壁の中の蜂の巣を狙って壊された民家の壁



荒らされたコンポスト

● 農地・果樹園

ツキノワグマの食物となり得るような農作物を栽培している場合は、ツキノワグマを強力に誘引する可能性があるため、しっかりと侵入を阻止することが必要です。

■ 電気柵の設置

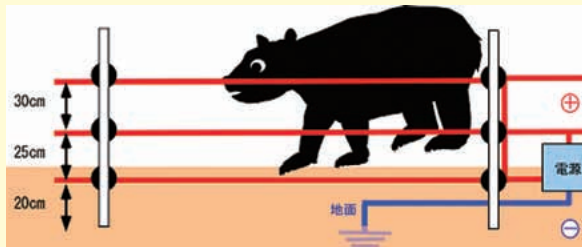
3段程度張るのが効果的です。下をくぐることが多いので、一番下の線は地上高20cm程度にするといいでしょよう。

■ 注意点

- 地面が平らでない場所の場合、ポールの間隔を短くするなどして地面と電線の隙間が広くならないように注意しましょう。
- 草などが触れると電圧が落ちてしまいますので、こまめな電圧のチェックと草刈りなどのメンテナンスは重要です。(4000V以上は必要です。)
- 明け方や夕暮れ時などに活動する個体もいるので、24時間通電しておいた方がいいでしょう。
- 電気柵は、ツキノワグマが鼻先で触れることによって不審物

を確認する習性を利用して、電気ショックにより侵入を心理的に阻止するものです。もし背中などの毛が多い部分に触れてしまえば十分な電気が流れませんので、農作物が収穫されるなどで電気を流す必要がなくなった場合は、直ちに撤去しましょう(電気を流さずにそのままにしておいた状態でツキノワグマが触れば、「この線は大丈夫!」と学習してしまい、その後、電気を流したとしても電線に触れずに侵入されてしまいます!)

電気柵の設置例



地面を通じて、足と裏とアース(電極)の間を電流が流れなければ効果が出ない。(乾燥した地面は、効果が弱い)

■ 廃棄果実などをそのままにしない

売り物にならない果実などをそのまま放置しておくと、ツキノワグマを誘引してしまいます! ツキノワグマには「食べてよい果実」と「食べてはいけない果実」の区別はつきません。廃棄果実などは土中に深く埋める、廃棄物として業者に回収してもらうなど、適切に処理しましょう。



放置された柿

● 畜舎・養魚場

鶏舎や家畜の餌、養殖している魚などが被害に遭うケースもあります。「農地・果樹園」の場合と同様、電気柵などでしっかりと防除しましょう。



被害に遭ったニワトリ小屋

● 集落周辺

ツキノワグマは本来、用心深く臆病な動物です。集落と森林の間が茂っていたりすると体を隠したまま集落に接近することができてしまいます。したがって、こうした茂みを伐採するなどの環境整備(緩衝帯)も併せて行うとより効果的でしょう。

※なお、緩衝帯は放置しておけばすぐに再び茂ってしまいます。継続的に刈り払いを行うなどのメンテナンスが重要になりますので、地域でよく話し合ってから実施することをお勧めします。



緩衝帯の例

5 人身被害を防ぐために



山中などで人間とばったり出会ったりすると、自身や子グマを守るために、攻撃を加えることがあります。人身事故の発生件数は、年によって変動はありますが、平均すれば年に1件程度です。

【参考:近年の広島県におけるツキノワグマによる人身事故の発生件数】

年度(平成)	17	18	19	20	21	22	23	24
件数	0	0	1	1	0	4	2	0

● ツキノワグマがよく活動する時間帯

森で暮らすクマは昼行性ですが、人里に下りて活動する時には夜行性になることが知られています。夕方や早朝に活動が活発になると言われていますので、この時間帯は特に注意しましょう。

● クマと出会わないために

ツキノワグマは耳が非常にいいと言われています。山に入るときやツキノワグマが生息している可能性がある場所に近づく場合は、鈴やラジオなどといった音が出るものを携帯しましょう。雨の日や川沿いは物音がクマに伝わりにくいので、特に意識して大きな音を出しましょう。また、山菜やきのこ採りのときにはクマへの注意が散漫になるので注意しましょう。



● もし出会ってしまったら

■ クマがこちらに気づいていない場合

気づかれないように静かにその場を立ち去りましょう。

■ クマがこちらに気づいている場合

- まだ十分にクマとの距離がある場合は、**ゆっくりと後ずさりして**逃げましょう。背中を向けて走って逃げると、本能的に追いかけてくる可能性があります。
- 比較的近い距離で出会ってしまった場合も同様

ですが、もしクマが近づいてくるそぶりを見せたら、注意をそらすために持っている荷物を置いて逃げるのも一つの方法です。

- ばったり目の前で遭遇してしまい、クマから攻撃を加えられそうになった場合は、とにかく自身のケガをできるだけ最小限にすることが必要です。このため、例えば両手を首の後ろに回して地面にうつぶせになるのも一つの方法です。これは、首の大きな血管や、腹部、顔面等をクマの爪や歯から守るためです。

6 ツキノワグマを目撃したら



- もしツキノワグマを目撃したり、ツキノワグマによる農作物などの被害を受けた場合は、市町役場へ連絡してください。
- 必要に応じて、防除対策の指導、追い払いや捕獲などを行います。

【監修】 島根県中山間地域研究センター 澤田誠吾 氏

【写真提供】 安芸太田町、島根県中山間地域研究センター、株式会社野生動物保護管理事務所

広島県ツキノワグマ対策協議会

広島県ツキノワグマ対策協議会は、ツキノワグマの適切な保護管理などを行うために、県と関係市町で構成されています。

事務局: 広島県環境県民局自然環境課

電話: 082-513-2933(ダイヤルイン) メール: kanshizen@pref.hiroshima.lg.jp

※パンフレットに掲載されている写真や図の無断転載を禁止します。

平成26年3月作成